

●全国学力学習状況調査(中3)

課題の見られた問題の概要	結果
事象を式の意味に即して解釈し、その結果について、数学的な表現を用いて説明することができない	正答率18.6
資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができない	正答率29.1
証明の必要性を意味の理解に課題がある	正答率29.1

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(中2)

課題の見られた問題の概要	結果
平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察し、その特徴を的確に捉えることができていない	正答率13.2
問題の中の数量やその関係から、二通りに表される数量を見出すことができていない	正答率24.8
平面図形の運動によって空間図形が構成されていることを捉えることができていない	正答率30.6

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
全国学力学習状況調査において、すべての領域、観点別において、東京都の平均より10ポイント前後上まわることができた。また、児童生徒の学力向上を図るための調査においても東京都の平均より5ポイント前後上まわることができた。	考えを数学的な表現を用いて説明するような問題や数学的な思考を問う問題を苦手とする生徒が多い。また、問題解決の過程を振り返り、結果を改善することができるようにする必要がある。これらが課題である。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
習熟度別少人数授業の展開により、生徒の学習状況や実態に応じた授業展開が可能となった。そのため、苦手意識の強い生徒にも、基礎基本の定着が見られ、より個に応じた指導が可能となった。	すべての領域で、数学的に説明し伝え合う活動や生徒が自分で考えを説明することができるようにするための授業の工夫を展開していくことが課題である。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	・ほとんどの生徒が意欲的に授業に取り組む。宿題等の提出状況も良好である。課題としては、数学的な表現を用いて、自分の考えを説明できるようにすることである。	・習熟度別少人数授業を生かした、個に応じた指導で、基礎基本の定着を図る。また、効果的な言語活動を取り入れることで、数学的な思考力・判断力・表現力を高める。
2年生	・数学の習熟度に差はあるが、数学に対して意欲的に学習する生徒が多い。発問に対する反応も良い。自らの思考力で課題解決できる生徒は少ない。	・習熟度別少人数授業を生かした、個に応じた指導で、基礎基本の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。また、効果的な言語活動を取り入れることで、数学的な思考力・判断力・表現力を高める。
3年生	・どの生徒もしっかりと授業に取り組み、基礎学力が定着している生徒が多い。道筋を立てて、数学的な表現で自分の考えを説明することが苦手である。	・習熟度別に生徒が道筋を立てて自分の考えを持てるような課題の設定や発問を工夫する。

●学校全体で取り組む内容

<p>数学的な思考力・判断力・表現力を高めるため、すべての単元で、生徒の意欲を高める発問の工夫、言語活動を効果的に取り入れること、授業のなかに生徒の考える時間を十分に確保することの3つを挙げる。</p>
